

# サマータイムについて

2007年12月

環境省・経済産業省

# サマータイム制度について

## ◆サマータイムとは

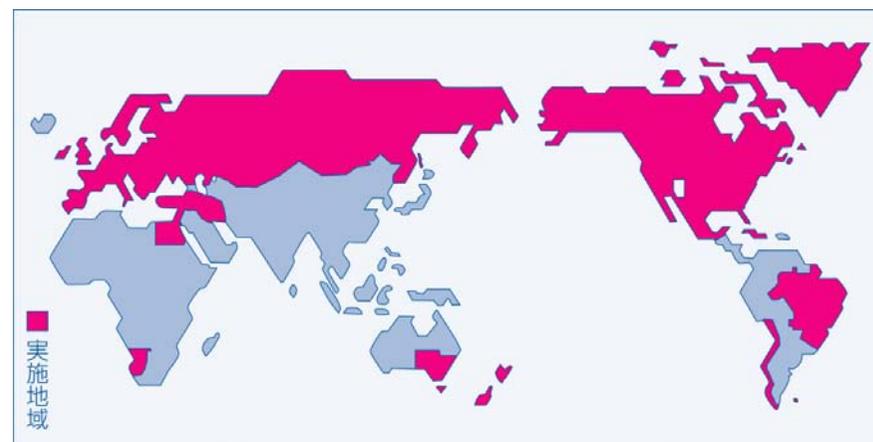
サマータイムは夏時間制度とも呼ばれ、昼間の明るい時間が長い期間(例えば4月～10月)、全国の時刻を標準時より1時間進める制度。この制度を導入することにより、起床・就寝時間、労働時間もこれまでどおりでありながら、明るい夕方の時間が1時間増えるためその時間を有効に活用できる。

また、地球温暖化対策の観点からは、夕方の照明や朝の冷房用電力等が節約されることにより、電力消費を削減することができる。

## ◆世界における実施状況

第1次大戦時から、イギリス等の欧米諸国で導入され始め、現在、世界の中高緯度諸国において導入されている。その総数は、70カ国以上で、OECD加盟29カ国中、日本、韓国、アイスランド(白夜になるため、サマータイムを導入する必要がない)以外の全ての国において実施されている。実施していないのは主として赤道直下のアジア、アフリカの諸国であり、日照時間の変化が少ないことが理由と考えられる。

他方、アジアでは現在、導入されていない。



## ◆サマータイム導入に当たって必要となる法律

明治19年及び明治28年の勅令により、「標準時」について規定されているが、サマータイム制度の導入に当たって、新たな法律を制定することが必要。

(GHQの指令により「夏時間法」が制定され、昭和23年から26年までの4年間実施されたが、過重労働、慣習の変更を好まないなどの理由により廃止となった。)

# サマータイム制度導入によるメリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 省エネルギー・温室効果ガス削減効果として、年間約50万kL(原油換算)(平成11年5月「地球環境と夏時間を考える国民会議」)</li><li>➤ ボランティア活動の促進や観光・文化産業の振興</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ コンピュータプログラムの変更、航空・鉄道等のダイヤ変更、交通信号機の調整などの手間・コスト増</li><li>➤ 残業時間の増加(滋賀県で平成15年に行われたサマータイム試行実験では参加者の約4割が労働時間が増加したと回答)</li><li>➤ 時間変更による混乱の可能性</li></ul>